# 2026年上半期、中国の上場白酒メーカーの売上高は6.7%減少した

帰属純利益の減少ペースは売上高の減少ペースを上回り、A株上場の酒類メーカー19社のうち15社が売上高の減少を報告した。

2026年9月2日（水）



中国の上場白酒メーカー各社は、2026年上半期に売上高と利益が全般的に減少したと報告した。中国本土のA株市場に上場している19社の合計売上高は約1,963億元で、前年同期比6.7%減となった。

『経済情報日報』が火曜日に公表し、Sina Financeが転載したこの数値は、全社が上半期の決算を発表した後、各社の提出書類およびWindによる集計データをもとにまとめられたものである。 報告された減少幅に基づくと、同グループは2025年上半期に約2,104億元の売上高を計上していたことから、今年の売上高は約141億元減少したことになる。

利益の落ち込みは売上高よりも大きかった。1月から6月にかけての19社の合計帰属純利益は8.4%

減の約731億元となった。これは、前年同期の比較可能な数値が約798億元であったことを示唆しており、約67億元の減少に相当する。

利益の減少により、同グループ全体の利益率は低下した。公表されたデータによると、帰属利益率は前年同期の37.9%から約37.2%へと低下し、約0.7ポイントの悪化となった。 この変化は、各メーカーが価格維持や在庫管理に努めているにもかかわらず、業界全体で収益圧力が続いていることを示唆している。

この不振は、一部の企業に集中したものではなく、市場の大部分に広がっていた。上半期に売上高が増加したのは19社の白酒メーカーのうちわずか4社にとどまり、15社は減少を記録した。利益面では、親会社株主に帰属する当期純利益が増加したのは3社のみであり、損失を縮小したのはさらに1社だった。残りの企業は、利益の減少または最終利益の悪化を報告した。

報告書によると、いくつかの大手メーカーは売上高が大幅に減少した。瀘州老窖の売上高は前年同期比36.35%減、山西汾酒は12.18%減、古井公酒は27.01%減となった。 大手蒸留酒メーカーは業界の収益や売上高において大きな比重を占めているため、こうした結果は業界全体の業績にさらなる圧力を加えることになった。

上半期のデータは、決算シーズンが終了する前に流布していた以前の部分的な集計よりも、より包括的な全体像を示している。この新たな集計は、全企業の中間決算発表終了後のA株上場白酒銘柄全体を網羅しており、中国本土の上場酒造メーカーの間で景気減速がどれほど広範囲に及んでいるかをより広く把握できる。

同レポートによると、今回の業績悪化は、業績の弱い少数の企業にとどまらず、はるかに広範囲に及んでいる点が注目される。調査対象企業の5分の4近くが売上高を減らし、グループ全体の利益は売上高よりも速いペースで減少した。この傾向は、販売数量や需要だけでなく、収益性にも圧力がかかっていることを示唆している。

ただし、これらの数値については依然として慎重に解釈する必要がある。 同紙の集計値は四捨五入された数値に基づいており、中国の中間決算報告の多くは未監査である。また、このデータはA株市場に上場している19社の白酒企業のみを反映している。中国の白酒業界全体を表すものではなく、香港のみに上場している企業も含まれていない。

『経済情報日報』によると、この更新された集計値は、全企業が業績を報告する前に公表された以前の部分的な集計に代わるものである。その結果、新しい合計値は、A株市場に上場する白酒企業グループ全体の上半期の業績を示す独立した指標として意図されており、以前の不完全な集計値と合算すべきではない。